

# まなびや

## 学制一五〇年記念企画展の見どころ



### ▼戦時下の学校

「学べない、遊べない、空襲で学校がなくなった」

一九四一(昭和16)年、小学校は「国民学校」と改められました。教科書も国民学校用のものが作られ、軍国主義的教育を受けていきます。一九四五(昭和20)年には、本土決戦に備えて国民学校初等科(現在の小学校)を除く全学校



国定第5期の教科書1941(昭和16)年

の授業が停止し、生徒たちは工場に動員されました。

### ▼戦後の民主教育

「最初誰もが困惑していた」戦争により、我慢を強いられ、多くを犠牲にした子どもたちでしたが、終戦によって日本の教育制度は大きく変わります。

一九四七(昭和22)年には、教育基本法が制定され、日本国憲法に基づいて個人の尊厳を重んじ、平和と民主主義の実現を目指す教育の理念が掲げられました。

6・3・3制の新しい学校制度が始まり、教科書も全国一律の国定制度から検定制に改められ、各教科で教える内容を定めた学習指導要領によって授業がなされるようになりました。

### ▼新制中学校の誕生



日本国憲法の公布、中学校の誕生など大きな出来事が書かれた学校日記

一九四七(昭和22)年5月1日に、福井県に一七九校の中学校が誕生しました。準備期間が短かったため、備品や図書も十分に足りず小学校から借り、教員も教科書も不足していました。しかし、誰もが男女共学の中等教育を受けることができる、という希望と期待をもって始まった新制中学校でした。

### ▼学校給食のはじまり



懐かしい給食

福井県では、一九四六(昭和21)年秋にアメリカの援助によって脱脂粉乳が配給された学校もありました。「パン・ミルク・おかず」の完全給食が実施されたのは、昭和25(1950)年頃でした。一九五一(昭和26)年には、県内の95%の学校で給食が実施されました。

### ▼伝染病対策教育

「子どもたちの健康を、教育によって守る」



「マスクの正しい付け方」 1953(昭和28)年『新しい理科小学六年下』啓林館

戦後の日本では戦争で悪化した生活により、チフスや天然痘などの感染症(当時は「伝染病」で多くの人が亡くなっていました。特に「亡国病」と言われた結核による年間死亡者数は、14万人を超え大変深刻な状況でした。

当時の教科書では、正しい知識を伝え健康を守るため、

幅広い学年・教科で伝染病について学習していました。現在、新型コロナウイルス禍の日本で予防意識が根付いている背景として、昭和20・30年代の学校教育が大きな役割を果たしたと考えられます。

### ▼福井地震

「復興のさなか、また学校が失われた」



倒壊した校舎(福井市啓蒙小学校)

一九四八(昭和23)年6月28日午後5時14分、福井県嶺北地方に大地震が発生しました。現福井市・坂井市の多くの学校は、震災によって全壊、全焼しました。学校の教具も、子どもたちの教科書も多くが失われました。夏季休業を1か月繰り上げて7月中には後片付けを済ませ、早い学校では8月上旬から授業を再開しました。